

令和３年度実務経験のある教員等による授業科目シラバス



関西医療学園専門学校
柔道整復学科（夜間）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	整形外科科学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	医 師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	運動器の疾患・障害の基礎・診察・検査・治療・関節損傷・スポーツ整形・整形外科疾患別各論の知識を修得する。・整形外科は骨折・外傷だけでなく、全身の運動器疾患(先天性も含む)を扱う学問であり、その治療にあたっては診断学が重要となります。講義では総論として診断、治療（保存的・観血的）を教科書だけでなく、X線(術前・術后)、MRI・CT 及びビデオを見ながら DISCUSSION し、理解を深めていきます。骨折、外傷などは柔整理論で詳しく取り扱っているので、各論では骨系統疾患、感染症疾患、骨端症、神経・筋系統疾患及び骨・軟部腫瘍などの整形外科特有の疾患の病態について理解することを目指す。	
授業計画	1	運動器の基礎知識
	2	整形外科診察法
	3	整形外科検査法
	4	整形外科的治療法
	5	骨・関節損傷総論
	6	スポーツ整形外科総論
	7	リハビリテーション総論
	8	疾患別各論：感染性疾患
	9	疾患別各論：骨腫瘍
	10	疾患別各論：軟部腫瘍
	11	疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患
	12	疾患別各論：全身性の骨・軟部疾患
	13	疾患別各論：骨端症
	14	疾患別各論：四肢循環障害
	15	疾患別各論：神経・筋疾患

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格(1 0 0 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	外科学概論		
講義期間	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	医 師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	外科学について総論・各論の知識を修得する。・外科学の範囲は広く、すべてを網羅することは不可能であるが、そのエッセンスとともに、日常診療にて、遭遇する可能性のある代表的疾患について学ぶ。また医療人として、必要である救命処置、患者診察において柔整師が初診する可能性がある疾患（骨折、狭心症、胃腸疾患の放散痛）について理解することを目指す。	
授業計画	1	総論：損傷
	2	総論：創傷
	3	総論：熱傷
	4	総論：炎症
	5	総論：外科感染症
	6	総論：腫瘍
	7	総論：ショック
	8	総論：輸血、
	9	総論：輸液
	10	総論：消毒
	11	総論：滅菌
	12	総論：手術
	13	総論：麻酔
	14	総論：移植
	15	総論：免疫
	16	総論：出血
	17	総論：止血
	18	総論：心肺蘇生法
	19	各論：脳神経外科疾患①
	20	各論：脳神経外科疾患②
	21	各論：脳神経外科疾患③
	22	各論：甲状腺疾患
	23	各論：頸部疾患
	24	各論：胸壁疾患
	25	各論：呼吸器疾患
	26	各論：心臓疾患
	27	各論：脈管疾患
	28	各論：乳腺疾患
	29	各論：腹部外科疾患
	30	各論：腹部外科疾患

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格(1 0 0 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	柔道整復術の適応		
講義名	整形外科診断		
講義期間	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	医師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	外科的な処置の必要性・適応と柔道整復術の適応があるのかの判断ができる知識を修得とする。・柔道整復師は今後医療現場において整形外科医や、看護師、理学療法士などとともにチームとして機能しなくてはならない。そのためには医療現場での適否や外傷への対応、判断などの知識を深めることを目標とする。	
授業計画	1	柔道整復術の適否について
	2	損傷に類似した症状を示す疾患
	3	損傷に類似した症状を示す疾患
	4	損傷に類似した症状を示す疾患
	5	血流障害を伴う疾患
	6	末梢神経損傷を伴う疾患
	7	脱臼骨折
	8	外出血を伴う疾患
	9	病的骨折および脱臼
	10	意識障害を伴う損傷
	11	脊髄症状のある損傷
	12	呼吸運動障害を伴う損傷
	13	内臓損傷の合併が疑われる損傷
	14	高エネルギー外傷
	15	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格(1 0 0 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	臨床各論		
講義期間	講 義		
単位数	1 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師 柔道整復師として接骨院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて講義し、教授する。		

講義内容・目標	運動器触診、物理療法機器の取り扱い、柔道整復術適応の臨床的判断（医療用画像の理解含む）の知識を修得する。・運動器の触診技術、各物理療法機器や取り扱い、X線像の読影、超音波画像装置の使用について学ぶことを目標とする。		
授業計画	臨床各論（Ⅰ） 1 肩関節の触診 2 肘関節の触診 3 手関節・手部の触診 4 膝関節の触診 5 足関節・足部の触診 6 股関節・骨盤の触診 7 物療機器の取り扱いについて 8 X・CT 線像の概要 9 X・CT 線像の読影 10 MRI の概要 11 超音波画像装置の概要 12 超音波画像装置の使用 13 超音波画像装置の使用 14 超音波画像装置の使用 15 超音波画像装置の使用		

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上合格(1 0 0 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	臨床治療実技		
講義期間	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	柔道整復学科(夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師 柔道整復師として接骨院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて講義し、臨床的実技を教授する。		

講義内容・目標	臨床の現場で用いられる柔道整復師の種々の技術を学ぶ。・臨床で用いるカイロプラティック、スパイラルテーピングなどの実践的な技術と対象、効果、効能、注意事項を日常臨床に携わる柔道整復師から、より実践的に修得することを目指す。		
授業計画	臨床治療実技 (IV)		
	1	徒手療法	
	2	〃	
	3	〃	
	4	〃	
	5	スパイラルテーピング	
	6	〃	
	7	〃	
	8	〃	
	9	カイロプラクティック	
	10	〃	
	11	〃	
	12	〃	
	13	臨床柔整療法	
	14	〃	
	15	〃	

成績評価	学修成果評価
評価基準	6 0 点以上合格(1 0 0 点満点)